

第 18 回 百舌鳥・古市古墳群世界遺産学術委員会（議事要旨）

日 時： 2023 年 12 月 18 日（月） 10：00～11：30

場 所： 大阪府咲洲庁舎 50 階 迎賓会議室

出席委員： 和田委員長、岡田副委員長、稲葉委員、西村委員、福永委員、増田委員、
宗田委員

オブザーバー：文化庁文化資源活用課 鈴木調査官

（※議題 1・2：すべて公開）

【議題】

1 史跡整備基本計画の遺産影響評価の方針について（議事）

○近年、登録時に評価されたアトリビュート（属性）よりも詳細なアトリビュートの記述を求められることがあるので、その場合の用意をしておくこと。

また、史跡の本質的価値を構成する枢要の要素との関係性についても留意すること

○評価項目 a) について、事業が大規模かどうかは評価によって決まるものであり、墳墓への直接的影響があるかを評価すべきではないか。誤解を招かないような表現を検討すること。

○「世界遺産「百舌鳥・古市古墳群」遺産影響評価マニュアル」は資産周辺での開発等に対する評価の側面が強い。史跡整備のような資産そのものへの事業を適切に評価ができるように、目次を含めて評価手法を検討すること。特に復元展示をする場合は、国際専門家会議での指摘事項を踏まえつつ、事業目的の妥当性、49 基の中から選定したプロセス、考古学的資料との整合性、整備工法の可逆性を評価すること。

○外から見ることでできない地下遺構を地上に復元するのではなく、当時から現在に歴史を経つつも地表に存在するという古墳群の特性を踏まえた復元等の計画の方向性について適切に評価できるよう評価手法を工夫すること。

○今回実施する史跡整備基本計画の遺産影響評価を、個別の古墳における復元にかかる評価も内包するものとするのであれば、整備基本計画の目次立てとの連動についても検討・工夫すること。

2 その他（報告）

特に意見なし